

深掘り！ 浮世絵の見方

太田記念美術館 23.12.01～12.24



美術愛好家のみなさん 「浮世絵の絵画」を観賞する際に、どのような点に注目するのでしょうか？

「浮世絵」の多くは、木版画として作られているため、筆づかいは勿論重要だが、木の板を彫る「彫師」や紙絵具を摺る「摺師」らの卓越したテクニックを知っておくと、作品をより深く堪能することができるという。

また、作品の保存状態や絵の中に記されて入る文字など、制作の裏側が見えてくる観賞の「ツボ」がいくつもあることにも注目をする必要があるとされている。

本展は、まず押さえておきたい初歩的な視点から、浮世絵マニア向けのディープな視点まで、様々な“浮世絵の見方”を深掘りするという企画である。

<本展の見どころ>

1. 「北斎」のグレート・ウェーブを深掘り！

世界で最も有名な浮世絵葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川冲浪裏》は、波の動きを捉えた画伯の観察眼は勿論、鮮やかな青い絵具やその絵具を紙に摺る「摺師」のテクニックなど浮世絵を鑑賞する上での見どころが詰まっている。

2. 鑑識眼が試される？摺りの違いを深掘り！

浮世絵の多くは木版画で出来ているため、同じ作品が沢山存在するが、摺りの早いものと遅いものを比べてみると、色や形など同じ作品でも細かいところに様々な違いがあるので、摺りによる細かな違いを深掘りする。

歌川広重《木曾街道六拾九次之内 須原》 摺りによって線や色が異なる



3. マニアックな知識を深掘り！

絵の隅にある小さな余白、絵の中に記された謎の記号は、言われても気がつかないようなわずかな場所に、浮世絵の制作の背景や保存状態が分かるような手がかりが隠されていることに、注目することが大切なこととされている。